SAT
SKI ASSOCIATION OF TOKYO
No.30
発　行　(財)東京都スキー連盟
〒102 千代田区麹町4-5
第６麹町ビル 551号
TEL(3262)2491(代)
発行日　1992．5．1
編　集　ＳＡＴ編集委員会
印　刷　エース工芸株式会社

ごあいさつ

(財)東京都スキー連盟
会長　盛田昭夫

アルヴェールヴィル冬季オリンピックが終わりました。今大会の日本スキー界の活躍は素晴らしく、特にノルデイック複合団体種目での若人の活躍は快挙そのものと、心から絶賛したいと思います。

今後、日本においては、1995年、第15回インターシー大会（野沢温泉にて開催）、1998年第17回冬季オリンピック大会（長野県にて開催）が予定されております。

今や日本は国際舞台として脚光を浴びており、国及び地方自治体並びに日本スキー界の今後の活動は世界中の注目を集めることになります。このような大会が日本で開催されることになったのは、我が国の経済的基盤が安定していることはもとより、スキー界の諸先輩方の多大な貢献と何事に対しても前向きなパイオニア精神が実を結んだからこそ、と言えます。今後は日本スキー界が一丸となってこの期待に応えていかなければなりません。そのために、私たちは次のことに取り組んでいきたいと思います。

今、世界では、自然環境を無視してスキー場開発は考えられません。地球的規模で環境と調和を守り、自然といかに一体化した開発をして行くかが今後の重要なテーマとなるでしょう。そのことについて一人ひとりが真剣に考えて行きたいと思います。

一方、一般スキーヤーの志向形態も変わりつゝあります。かつての集団型一辺倒から個人の好みに合ったスキーを楽しむ個人型へと移りゆく傾向が見られます。集団教授型、フリーを楽しむヤング派、ゆったりマイペースの熟年派、歩くスキー派、散策派、と益々多様化していくことでしょう。そのようなスキーヤーのニーズに応えられるような組織が要求されますので我々もフレキシブルな対応を考えていかねばなりません。

最後に、後進の育成ですが、特に次の大会への原動力となるジュニアチームの育成に力を注ぎ、更にスキー技術の強化にも拍車をかけて全休のレベルアップをはかっていきたいと思います。

日本の、そして、東京都スキー連盟の皆様、共に努力していきましょう。

都連執行部のあるべき方向

副会長　菅　秀文

’92年の主たる25の行事に目標の成果を挙げ得たことは加盟団体の皆様のご協力によるものと感謝を致します。

然し公益法人としての財産の運用について方法的な誤ちを冒かしたことに執行部一同、陳謝をするものであります。

公益法人の職権は会長以下同格であり、アマチュア役員体制のなかでは極く限られた範囲内でしかコンファーム出来得ないうらみがあります。前年までの前例を踏襲する慣習があります。その結果、職制による指示とか依頼、委任の通例がマンネリ化しがちです。

今回のように仕事遂行上の経過についてのリコンファームとチェックの重要性を痛感したことはありません。

旧来の方法の見直し即ちモチ屋はモチ屋と云う専門性は大切なことですが、マンネリ化の恐れもあります。

事業については研究テーマの話し合いで一つは公益法人のなかでの位置づけの視点から、一つは具体的、倫理的感性を活かした面から創造性を生み出すことが大切なことと思われます。

要は固定観念にとらわれずに、常に全てにわたってイノベーションを繰り返し、ピンチこそチャンスと明るく受けとめるプラス志向が発展へのキーワードと言えるでしょう。

そのためには人のつくるヒューマン　インヴァイロンメントの輪を広げ、信頼関係の上に立っての方向へ信念をもって進むことと愚考するものです。

＝お知らせ＝

第２回評議員(代表委員会)　開催
６月28日(日)　午後３時より、
高島平公民館

今年度から予算と決算に分け、年２回評議員会が開催されることになります。６月28日は予算会議です。詳細のご案内と議案書は６月初旬、各加盟団体に郵送されます。

８月30日(日)　評議員会
９月12日(土)　事務連絡担当者会議
９月23日(日)　救急法講習会

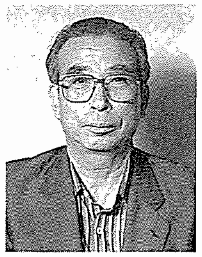
SKI・VTR・最新作
’92技術選［トップ10のテクニック］
第29回全日本スキー技術選手権大会
税込価格3、200円(カラー60分)〒600
●各種目トップ10の技術と個性を徹底解説。

スキージャーナルのスキー図書&VTR
★好評発売中！(定価は税込)
スキージャーナル(株)
〒160 東京都新宿区四谷3-11 山一ビル
☎03(3353)3051 郵便振替・東京0-33504

’92スキー図書●新刊
(全面改訂版)
スキーと安全［けがを防ごう］
(財)全日本スキー連盟編著・定価2、000円〒310
スキーヤー改造計画［里吉敏章・責任指導］
里吉敏章著・定価1、300円〒260
新・渡部三郎のスキー
渡部三郎著・定価1、300円〒260
P・プロディンガー最速への道
P・プロディンガー、山口肇共著
定価1、300円〒260
スキーのばいぶる
土方あきら著・定価1、400円〒260
読まずに買えるかスキー選び
石原健次郎著・定価1、200円〒210

総務部の取り組むべき課題について

総務部長　島田武重



昨年は私たち都連に大きな不祥事が発生した年でありました。

証券問題に引き続いて事務局長の公金流用事件が相ついで起きてまいりました。事務局長は懲戒解雇、会計担当職員は諭旨解雇となり事務局職員がすべて入れ替るという事態となりました。

登録事務をはじめ各種申し込みという都連事務局の最も多忙な時期の、職員の交代でありましたから、加盟団体の皆さんに多大なご迷惑をおかけすることになりました。心からお詫びを申し上げると共に、おかげ様で皆さんのご協力によりこの困難な時期を何とか乗り切ることができましたことを、心より感謝申し上げる次第でございます。

４月１日から新しい事務局長が就任し、３名の新しい女子職員を含めて、４名の文字通り新事務局がスタート致しました。しかし新米の事務局でございますので、多くのご迷惑をまだまだおかけすることと思いますが、皆さんの暖かいご指導とご協力により一人前の事務局に成長するものと確信を致しております。おかげ様で今日まで「電話の応対がよくなった」「事務局が明るくなった」「窓口業務が親切になった」などの皆さんからのおほめの言葉をいただいて、職員もより一層努力しようと誓い合っておるところでございます。

総務部は、今回の一連の不祥事は不幸な事ではありましたが、都連発足55有余年の歴史の原点に、今こそ立ちかえり、見直すべきは見直し、改むるべきは改め、真に発展するクリーンな都連を築くための絶好のチャンスではないかと考えます。

長い歴史は、知らず知らずの中に理事会の機能が、惰性的に押し流されていなかったか、組織体としての監査機能はどうであったのか、執行機関としての意志の疎通は充分になされていたのかどうか、職員に対する指導監督にゆるみはなかったのか今こそ真剣に反省すべき時でもあると確信します。そして如何にして加盟団体の皆さんの信頼を恢復するかが最も肝要な出発点でなければならないと考えます。

(1)会計システムの電算化について

公益法人の組織活動の充実を図るためには、ＯＡ機器の活用が大切であることはいうまでもありません。とりわけ会計業務の電算化は急務と考えます。電算化に伴って会計システムのフローチャートがきちっと整備されなければなりません。バッチ・ワッペン類の在庫管理も電算管理されなければなりません。そして１人の職員によって会計を担当することは間違いの起きる大きな要因でもありますので複数の担当者によって各々のチエック機能が働くように致します。

(2)各部門の調整と行事執行の円滑化

各部門の調整をはかりながら、充実した都連運営のための総務部の責任は大きいと考えます。加盟団体及

そのすべては頂点に立つために。
それはあらゆる雪質、あらゆる状況においても完璧に華麗であるために誕生した。
心で描くラインを忠実にトレースする性能。テクニカル・フォームをより豊かに表現する操作性。そして鮮烈な切れ味。
そのすべてが高次元で完成した。頂点を極め、維持するために。サロモン・エキスパートライン。
expert line
SALOMON

び協賛関係との理解を深めながら活動をより進展させたいと思います。

(3)財団法人としての都連の運営

これはすでに規約検討委員会が設立され真剣に審議されているところであります。今年度から第２回目の評議委員会が６月に開催されることになっております。すなわち予算と決算に分けて年２回の評議委員会が開催されるわけであります。

更に加えて、安定した都連財政の確立、広報活動の強化等々、課題は今後も引き続き前向きに努めたいと思います。

〈諸行事の報告〉

教育部行事には、指導者養成講習会、準指導員検定会（理論、実技会場）、東京都スキー技術選手権大会、特別講習会へ、競技部行事には、クラブ対抗競技会、小学生スキーチャンピオン大会へ、フリースタイルスキー部へは東京都フリースタイルスキー選手権大会、全日本フリースタイルスキー東京大会へ。

上記会場へ取材活動に出向、各記事は東京新聞、東京中日スポーツ新聞、スキージャーナル、スキーグラフィク、及びこの「ＳＡＴ」に掲載。

〈国際委員会報告〉

11月28日㈭、委員会を開催。次の事を決定致しました。

○「Ski Activities」の改定、増刷をする。

○オーストリアデモ選手による「ワールドテクニックインジャパン」の講習会を支援する。

○海外派遣選手を例年どおり送る。

11月５日、オーストリー、ブンデスハイムスキー学校

○長、フランツ・ホピヒラー氏来日、スキー施設見学訪門に同行。

○11月17日、ホピヒラー氏歓送会出席。

○２月12〜14日、ワールドスキーテクニックインジャパン国際シンポジウムへ出席。

○３月６日、オーストリーデモ選手歓送会出席。

○４月７日、オーストリー、インスブルックスキー学校長ペピ・ピトル氏来日、懇談会に出席。

新加盟団体の紹介

昨年９月に開催された定期評議員会において承認された新加盟団体を紹介いたします。

クラブNo.	加盟団体名
530	ヘルメス・スポーツクラブ
531	ボイジャースキークラブ
532	ウイッツ
533	ＡＶぴあ・スキークラブ
534	ベーシックスキークラブ
535	ＪＲ東海東京スキークラブ
536	福生市スキー連盟
537	成城シュビンゲンスキークラブ
538	スキークラブ・スノーマン
539	クリエィティブスキークラブ
540	ロックファイブスキークラブ
541	不二サッシ東京スキー部

次に９月以降開催された理事会において仮承認された加盟団体を紹介いたします。

クラブNo.	加盟団体名
542	セカンドウインドスキークラブ
543	スノードロップスキークラブ
544	オムニスキークラブ
545	サーティーフォーティスキークラブ
546	スキークラブ　ツヴァイテ
547	トヨタ自動車東京スキークラブ

海外スキーツアー、
私たちにご相談ください。03(3203)9630
●地球を滑ろうSNOW WORLDヨーロッパ・カナダ・アメリカ・ニュージーランド方面
●南太平洋の島々へBEACH WORLDニューカレドニア・タヒチ・フィジィー・プーケット方面
●どんな旅でも03(3203)1213まで 個人から団体・ご出張から社内旅行などご用命下さい。
社団法人日本旅行業協会 正会員　運輸大臣登録一般旅行業第351号・一般旅行業取扱主任者橋本健
株式会社 クロサワトラベルサービス
〒169 東京都新宿区大久保1-3-14 ワールドビジネスセンター新宿5階 FAX.03-3203-9633

教育部報告

’92年度教育部行事を振返って

教育部長　広田貞彦

指導員研修会

12月の菅平会場、車山会場合計1700余名の研修受講者に併せて、指導者養成講習会を同時に実施したことは失敗であったことを素直に認めたい。シーズン初めの研修会ということで参加数も年々増加傾向にあること、また暖冬のあおりで雪も少なかったために、参加された皆様方に満足のいく研修や講習が出来なかったことを痛切に感じた。これからの課題として一会場500人以内で行事を遂行したいと考えております。

指導者養成講習会

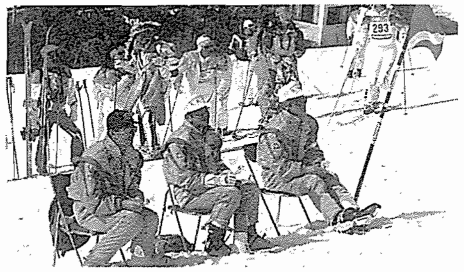
前期、後期と２回の講習会に出席することを義務づけて実施した。前期は主に指導種目に時間を懸け、後期は実施種目中心に展開したが、期待した通りの成果が得られたと思う。ただ参加者には負担が多くなり厳しい面も考えられるので、来期については今年度と同じようにするか、日程を１日長くして１回で実施するか今後の検討課題としたい。

準指導員検定会

菅平会場、志賀会場で合計286人の合格者がありました。今年度は年輩者の方々の合格が目立ちました。全般的に指導種目で不合格になった人が多い結果になっています。また菅平会場においての700名の受験については、受験生や検定員に多くの無理が懸かるので、次年度は受験生の人数によっては、２グループに分けて実施することも考えている。

技術選手権

参加者485名、10年ぶりで都連単独での選考会を兼ねて実施した。南関東ブロック選手権大会にも出場するが、今後も都連独自の形で続けて行きたい、また参加者が増えてきているので、予選、決選という全日本方式で行なうことも検討中である。



プライズ検定会

今年度も例年と同じように合格者は少ない。他県連より東京都の検定は難かしいという話も聞かれるが最高の技能レベルを要求される検定会である。それなりの価値があり評価されるものと思う。益々研鑽されて多数のスキーヤーが挑戦されることを望みます。

日本体育協会資格付与

いろいろと不透明な部分がありましたが、現行の指導員制度を存続するということが確認されました。また体育協会の資格については指導員制度と二本立てで行くということであります。商業や地域指導員等の件については紙面の都合上詳しく説明出来ないので、研修会の折に内容を説明しております。何か変化が生じた場合には早急に皆様方にご連絡致します。

終りに

教育部の行事も反省や課題を残して今年度も大過なく終える事が出来ましたのも皆様方の御指導や御協力の賜物と深く感謝申し上げます。今後益々指導員が増えて参ります。そこで教育部の行事を充実させるために専門委員の強化を図りたいと考えております。現在90余名の専門委員がおりますが、雪上で全員集合する事はない状況です。技術ばかりでなく、指導法や表現の方法等、バイタリティに富んだ専門委員を目指しております。この件についても宜しく御理解の程をお願い致します。

競技部報告

べにばな国体報告 （第47回国民体育大会冬季大会スキー競技会）

競技部 副部長
国体選手団 総監督 長谷川 武

開会式

３月28日山形市内あかねが丘陸上競技場での開会式は、快晴無風気温15～16度と夏の国体開会式を思わせる中、厚い白のユニホームを身にまとい、全身汗だくになりながら始まった。

ハット息をのむような山形美少女の持つ、「東京」のプラカードのもとに浜中団長（都体協副会長)、舘崎副団長（都連副会長）以下65名をようする大部隊の入場行進は、晴れがましい思いよりも良い成績を取らなければならない責任の重さに、身が引締った。

成績

翌日からの蔵王会場は開会式とはうって変り、雨や濃霧に悩まされる日が続いた。しかしアルペン成年男子B組。成年男子リレー。ジャンプ陣の健闘と、アルペン女性軍の大活躍により、天皇杯（男子総合成績)。皇后杯（女子総合成績)、共に８位入賞を勝ち取ることが出来たのは非常に幸いであった。特に皇后杯入賞は第32回（昭和52年）以来15年ぶりのことである。

（注）国体の入賞は、個人、総合、共に８位まで。

べにばな国体　入賞者

順位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
組別	成年男子B		成年 男子	成年男子B	成年男子A	成年男子A	
種目	大回転		リレー	クロスカントリー15キロ	スペシャルジャンプ	スペシャルジャンプ	
男子	伊藤　政照		斉藤　修 長谷川　勲 山崎　正勝 奥山　明宏 結城　谷行	結城　谷行	井上　隆一	千葉　勝利	
組別		成年女子2部				成年女子B	成年女子B
種目		大回転				大回転	大回転
女子		宮崎友見子				佐藤　有里	室田　陽子

（注）Ａ，Ｂ，Ｃ組は、年令別。

２部は、過去国体スキー競技会に出場経験のある者を除く。

他県レベル

北海道から南は沖縄までの47都道府県の中で、ことスキーに関しては、北海道、長野、新潟の御三家が圧倒的に強くて、厚い選手層を持ち他県を寄せつけない。青森、山形が続いて強く、６・７・８位を秋田、岩手、群馬が競う中を、東京が割り込もうとするのが現状である。

今回も最終日まで８位までの入賞はほとんど不可能と思われていた。それだけに入賞の喜びは大きい。

それでもスケート、アイスホッケーを含む冬季大会合計では、天皇杯、皇后杯共に３位となった。

強　化

国体選手は国体予選成績と推せんによって選ばれるが、企業（東京美装、アシックスなど）及び学連所属選手と、その他の選手に分かれる。今後の課題はこの一般選手層の強化にある。

女子選手はアルペン、ノルデイック共に好成績を取り、東京のレベルは高く今後が期待出来る。

しかし、少年男子については全体にレベルが低い。東京のジュニアの大会、ジュニアレーシングキャンプのあり方を考えさせられた。

競技力は理論よりも感覚的な要素がより必要であることを思うと、視覚から上手で速い選手の滑りを取り入れることが必要であり、それには強い選手の招待や、海外遠征などを真剣に考えなければならない時が来ている。

運　営

我々競技部は、都連主催の各大会の運営が重要な任務である。

今回の国体は5,000人近い選手、役員を抱えた運営で、その予算が億単位であったとしても、多数のボランティアにより正確に大会が運営されたことは大いに参考になった。

華やかな閉会式の終ったあと一抹の淋しさを感じながら、イベントビジネスのあり方を考えていた。

第45回東京都スキー連盟クラブ対抗競技会

団体総合成績優勝

アルペン種目　１．世田谷区スキー協会　２．東京スポーツマンクラブ　３．ヌプリスキー同人

ノルディック種目　１．世田谷区スキー協会　２．日電府中　３．ＪＲ大井

スラローム　（各組別　上位３位迄の選手）

組　別	1　位	2　位	3　位
男子ジュニア	平本　佳暢（町田市）	柏木　崇（シール）	谷　雅則（スポマン）
〃　少年	先延　貴之（板橋区）	佐伯　耕介（スキー研）	鈴木　利和（杉並区）
〃　1部	横尾　志（ヌプリ）	寺岡　峰夫（青梅市）	村田　光宏（スラローム）
〃　2部	後藤　守（中野）	成田　知隆（ティンバーライン）	小川　一成（特別区）
〃　3部	佐藤　一正（ニトロ石）	石川　利博（NTT東京）	角館　善治（港区）
〃　4部	牧田　竜彦（スポマン）	鈴木　毅（ヌプリ）	廣井　武昭（東大和市）
〃　5部	佐藤日出夫（世田谷区）	戸田　健一（チロル）	阿部　昭夫（トルベ）
〃　6部	佐藤　浩（世田谷区）	入澤　一次（江東区）	遠藤松太郎（アルピナ）
女子ジュニア	木所理早子（若葉）	谷　由美子（スポマン）	
〃　少年	秩父　彩子（若葉）	成田真実子（スキー研）	吉田　雅美（若葉）
〃　1部	上原　由（ヴェスタ）	小島　瑞会（スポマン）	片岡　里枝（スポマン）
〃　2部	野尻　幸子（世田谷区）	小菅みどり（世田谷区）	稲垣　雪恵（エスプリ）
〃　3部	谷　百合子（スポマン）	松本キヨ子（世田谷区）	佐藤ミツ子（世田谷区）
〃　4部	深沢　睦子（トルベ）	高木　敦子（スラローム）	平尾　信子（二十日石）
〃　5部	本間かほる（世田谷区）	上山千恵子（ヴェスタ）	長内　レエ（杉並区）

クロスカントリー競技

※クロカン４km・組別１位選手名

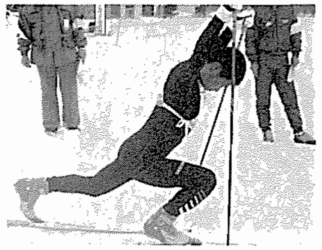
女子５部	上山千恵子（ヴェスタ）
〃　4部	山口　愛子（スポマン）
〃　3部	土屋　博子（都庁）
〃　1部	橋本　文江（KSC）
男子６部	佐々木栄一（シール）
〃　5部	鳥海　幸一（チロル）

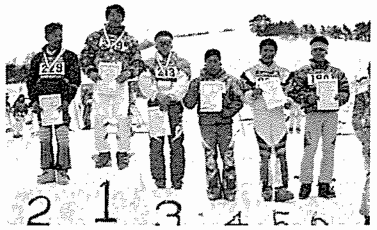
※クロカン８km・組別１位選手名

男子４部	土田　和美（都庁）
〃　3部	岡　宏（世田谷区）
〃　2部	篠原　英樹（JR大井）
〃　1部	笛田　剛（世田谷区）

※リレー３位迄

1　位	世田谷区スキー協会
2　位	日本電気府中スキー部
3　位	ＪＲ大井工場スキー部





フリースタイルスキー部

オリンピックイヤーを省みて

フリースタイルスキー部長
大槻　　譲

アルベールビルの空に日章旗が、ひるがえるという予期以上の日本チームの活躍で第ⅩⅥ回冬季五輪大会が幕を閉じ、五輪旗は次の開催地、ノルウエイのリルハンメルに引継がれて行った。

この大会から、モーグルが正式種目となり（バレエ・エアリアルは公開競技）それぞれの種目に１名宛ではあったが、日本から選手を派遣、参加させることが出来た。本連盟からは、バレエ種目に昨年の世界選手権大会に引続き、田中由香子選手（港区）が選ばれ入賞は逸したものゝ11位と健闘した。

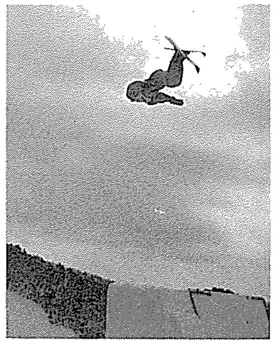
男子エアリアルには、富山県の永井祐二選手が出場し14位となり、正式種目のモーグル(男子)に出場した北海道、山崎修選手は常日頃の彼らしくない滑りで40位に甘んじてしまった。コーチの言によると、スタート時点で緊張の極というか、意識過剰のせいか既に手足が小細みに震えていたという。オリンピック大会の持つ重みは、我々の想像以上のものであったらしい。

しかし、今後の五輪大会を含めての国際競技会に良い成績を残すために、少く共自分の持っている技術を十分に発揮するためには、もっとメンタルな部分のトレーニングを重点的に行ってゆくことが必要であるとつくづく感じた。

相変らずの暖冬少雪のシーズンであったけれども、幸いにも本連盟の行事のすべては予定通り実施できたのは、喜ばしいことであった。

昨シーズン当りからの顕著な傾向として、モーグル種目への関心が非常に高まって来て、都大会の参加申込者が激増していることである。

オリンピックの正式種目になったことも一つの要素であると同時に、一般スキーヤーからフリースタイラーへの変身希望者にとって入り易い～コブ道免許皆伝への道なのかも知れない。こうした状況の変化に対応して来年度から、現在のモーグル競技会をＳＡＪ公認のＡ大会としてポイント制を適用できるように格上げをして、より多くのモーグル愛好者に門戸を開いて行きたいと考えている。



バレエ・エアリアルの両種目については、今迄通りの教審を継続実施し、質的向上を計ってゆきたいと思う。別図の92シーズンの成績一らんのように、この２種目に関しては、都連会員の活躍は目ざましいところがあり、他県連会員の追従を許していないが、今シーズンより採用した、『都指定強化選手制度』を更に充実して行き、その牙城を守りたいところである。

フリースタイルスキーの歴史も、本連盟でも来シーズンは12年目を迎え、オリンピックイヤーを契機に引退表明をする選手も多く、まさしく新旧交代の時期にさしかゝっているように思われる。

今日迄多くの篤志を頂いて、ここまで育って来たフリースタイルスキーであるが、相次いでやってくるオリンピックに、東京から五輪選手を送り出せるように今まで以上のご支援を賜わりますようにお願いして報告とさせて頂く。

◎ＳＡＴ登録会員の国際大会等での記録

1．アルベールベル オリンピック大会

田中由香子（港区）バ　レ　エ　　11位

2．FISワールドカップ

選手		参加	ベスト順位	会　場
田中由香子	（港区）	4戦参加	バ　レ　エ	13位（猪苗代）
横山　岳男	（リステル）	6戦参加	エアリアル	16位（猪苗代）
生沼　英幸	（港区）	4戦参加	バ　レ　エ	21位（斑尾高原）
石川　康太	（リステル）	2戦参加	エアリアル	16位（斑尾高原）
藤井　博子	（リステル）	4戦参加	エアリアル	9位（猪苗代）
八木　琢麻	（スカーゼ）	2戦参加	エアリアル	21位（斑尾高原）

3．全日本選手権大会（1992.3.14－16）：斑尾高原

種目	男子 順位	男子	女子 順位	女子
バ　レ　エ	優勝	生沼　英幸(港区)	優勝	田中由香子(港区)
	5位	長谷川宏太郎(港区)	2位	辻口さゆり(港区)
	9位	曽根　俊郎(フリーSC)	5位	上村　祐代(日本ノルディカ)
モーグル	8位	時井　秀彦(チームリステル)	8位	堀江寿美代(チームリステル)
	15位	大野　佳之(フリーSC)	9位	松田　京子(フリーSC)
	18位	林　　大樹(チームリステル)	10位	上村　祐代(日本ノルディカ)
エアリアル	優勝	待井　　寛(チームリステル)	優勝	藤井　博子(チームリステル)
	2位	八木　琢麻(スカーゼ)	2位	上村　祐代(日本ノルディカ)
	3位	武田　　健(チームリステル)	5位	長岡　裕子(スカーゼ)
	5位	横山　岳男(チームリステル)		

92年度活動報告

傷対委員長　**内　田　時　雄**

救急法講習会

92年度救急法講習会が東京都勤労福祉会館で９月23日開催されました。

申込者数　　650名
出席者数　　男子 501名　女子 136名　　計 637名
　　　　　　欠席　13名　出席率　84.5%

講義内容は10時よりＮＨＫライブラリーの協力で係員が派遣され「健康クリニック・骨について」のテレビ放映、10時30分よりＳＡＴチームドクター、ドクターパトロールの昭和大学整形外科栗山節郎講師の講義とつづきました。体験を交えた内容はＦＩＳの大会における選手のコンディション、会場の状況等について指導者として、安全対策担当者として現場から医師の診察を受けるまでの対応などであった。

午後からは日赤東京都支部救急法指導員田中講師より、救急法の講義、三角巾を使用する実技が行われた。

参加の方がたには手狭な会場でご不便をおかけしましたが、準指受検者、安全対策担当者共熱心に受講されました。

パトロール受検者養成講習会

各加盟団体の推せんを受けたパトロール受検者の養成講習会が12月21日より23日まで車山高原スキー場で開催されました。南関東ブロック神奈川県連より６名、千葉県連より１名、都連の15名参加で進められました。講議内容は資格取得に向けて雪上技術、ボート搬送、室内で座学、ロープワーク、三角巾の実技と多くの講習を受けました。都連15名の受検者のうち13名がパトロール資格を取得しました。

93年度行事計画(案)のお知らせ

救急法講習会　　９月23日（祝）　青山学院大学
パトロール受検者養成講習会
　１月８日㈮～１月10日㈰　車山高原スキー場

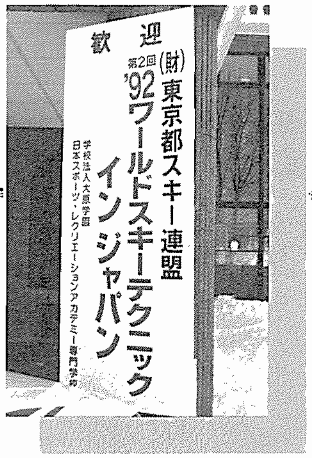
パトロール受検のためには日本赤十字社救急法普通科講習会を修了し「適任証」を受領していなければなりません。この講習会は定期的に毎月日赤東京都支部において開催していますので受講を希望する方は下記に日程等を問合わせのうえ申込をして下さい。申込、受講、合否発表までに日時がかかりますので早めに手続きをして下さい。

日赤東京都支部事業部普及課安全係
ＴＥＬ　03—3212—6741～6

ワールドスキーテクニック　インジャパン

実技講習と国際シンポジウム開催

渡辺　　茂・久保田友江



(財)東京都スキー連盟主催によりオーストリア及び日本のトップデモを迎えての特別講習会が２月22日から２日間菅平高原スキー場で開催された。

期間中、オーストリア、フランス、ニュージーランド、日本の代表により、国際シンポジウムを開催した。

去年に引き続き今年は２回目、指導者を含む一般スキーヤーを対象に企画されたものである。

募集ＰＲが十分されなかったが、それでも70人の受講生（１級以上の技術取得者）が参加した。

通訳を通じての指導も、スキー技術の理解には言葉の壁は無く、日頃指導的立場にいる受講生達は初心にかえって熱心に研修していた。

一方、シンポジウムの方は、各国共スキーテクニックは勿論、歴史、文化、安全管理、そして施設設備等、スキー場と自然環境との対応のあり方を取りあげていた。国土の違いはあっても、今後共スキー界には重要なテーマとなっていくであろう。

次は、各国代表者による発表内容の一部です。

〈日本〉

全日本スキー連盟教育本部
東京都スキー連盟教育部理事　**渡辺　　茂**

(1)日本のスキー界ではこの２～３年の短期的な傾向を分析してみると次の３点があげられる。
①スキー産業の発展　②スキー人口の爆発的な増加
③新設スキー場の増加　これらは、日本経済の発展、リゾート法の制定、生活のゆとり、レジャースポーツ・健康スポーツの愛好者の増加等と深い関連性を示していると考えられる。

(2)標高1000m～1500m位の寒冷地のスキー場では、スノーマシンの設置が目立ち、ゲレンデは常に平滑に整備され、緩中斜面を中心に高速リフトを設置し、初心者でも気楽に山の上に行き、滑り降りれる状況になっている。この様な要因によって大きな有名スキー場だけでなく中小規模のスキー場でもスキーヤーがあふれかえることになっている。

(3)推定スキー人口は５～６年前迄は1000万人と言われていたが現在では1500万人から1800万人位に増加したと言われている。

必然的にスキー技術が未熟で訓練されていない暴走スキーヤーの大量発生をうながすことになっている。

これ等一般スキーヤーの技術的傾向は、落下慣性と用具の機能のみに頼り、浅い回転弧で滑り落ちている状態であり、特にターンの後半部分の調整能力に欠けているので、スピードが出るに従ってターンコントロールとスピードコントロールができず暴走し、様々なスキー傷害を引き起こす要因になっている。これについては全日本スキー連盟では技術面、安全面の観点から担当部門に対してスキー場パトロール、スキー学校及びスキークラブ指導者等を介して安全面の徹底指導をうながしている。

〈フランス〉

フランス国立スキー登山学校教授　**ピエール・ボット**

(1)フランスのスキーの現状は、スキー人口500万人、リフト4000基である。スキー場の発達のしかたは、
第一世代、シャモニー、ムジェールの様に昔から夏の保養地（山）であったところが、世界大戦以前からスキー場として発展していったもの、計画的コンセプトでなくて、自然発生によるものでした。

第二世代　標高の高い所で街の無い中に1950～1960年氷河を含くむ地域に発達、バルディゼール、トロアバレーetc……。
第三世代　スキーリゾート開発ブームに乗り、「作れば売れる」的となる。スキー場、宿泊施設、駐車場と機能的統合となった。巨大な建物となり環境問題が生じ始めた。
第四世代　山の景観にマッチした自然地形にあわせた建築物が求められるようになった。

(2)ローテーションについて
1922年　オーストリア、ハンネスシュナイダーにスキーメソッドを学びにフランス人もサン・アントンに行った。
1936年　オーストリアの教師によって認定され、エミール・アレ（チャンピオン）によって、フランス技術をまとめ､「ローテーション」はデビューした。
1938年　スキー教師学校設立。
1950年　ジェームス・フッテンによる立ちあがりからローテーションを伴う技術。立ちあがりから後半外足にのっていく。

(3)ディプロマ　ＥＮＳＡについて
外国人がフランスでの検定を受ける為の予備試験。本来は３週間必要だが、ここ日本では一週間でやっている。どれだけターンの後半、スキーを滑らせるかをテーマとしている。

フランスの教師はフレンチメソッドで教えているがスキーヤーの技術の要素も重視している。

1948年　「山の法律」スキー教師の職業的立場を国が決めて、省の必要性から青年スポーツ省で、国立スキー登山学校 ENSA (Ecole National de Ski Alpinisme) 国家検定をとった11000人の人が皆スキー界で活躍しているのではなく、医者として個人的に活躍していることもある。

フランススキー協会はフランススキー学校をまとめているものである。

〈オーストリー〉

オーストリー国家検定教師
サン・クリストフ　ブンデスハイム校主任講師　**ゲオグル・ヘルリグレ**

(1)ヨーロッパ諸国からやっては来るが、オーストリアのスキー人口は300万人で、現在そんなに増えてはいない。

最近、環境問題がさかんになっている。オーストリアは車が多く、新らしいゲレンデづくりは困難である。その為、今あるスキー場を良くすること、交通状況を良くすることに力を入れています。

(2)昨年、サン・アントンでインターシーがありました。
そのことで、何点か説明します。
27ヵ国参加で、オーストラリアが始めての参加でしたがなかなか良かった。

我国オーストリアは80人も参加、身体障害者もスキーができるというテーマを取りあげました。さらにアルペン、クロスカントリー、子供、歴史等紹介し、テーマはオールラウンドスキーでした。

多くの国が環境問題、マーケッティングを取りあげ、前回ほど技術はとりあげられなかった。

(3)オーストリア指導者養成について
ＥＣは統一してゆくもので新らしい方向へ向っている。アルペン指導法も検定をしっかりやっている。例えば養成期間10日研修すると、パラレルターン迄指導できるとなっている｡又、一つの地域で一つのスキー学校と決まっていたが､マーケッティングを重視され､一つの地域に幾つものスキー学校が可能へと移りつつある。

1995年野沢でインターシーが開催される。この菅平高原にくる前に野沢で滑ってきたがとても良いところです。

技術だけでなく、安全面、マーケッティング、環境問題等、今後更に重要視され、良い方向へ進めてゆくことが大切と思います。

〈ニュージーランド〉

ニュージーランド・インストラクター
現在 日本スポレク教師　**フィリップ・スティール**

日本のゲレンデは短かくて、急で、固くて良い状況では無いが、変化に富む楽しいところもある。技術的に一言すればスキーは単に真上から押すだけでなく、積極的に動くことによってスキー技術における力の使い方を十分に研究する必要があります。

第３回海外派遣選手報告

この企画は、東京都スキー連盟が、国際交流の一環として実施している事業の 一つであり、今年は３回目。

去る１月29日～２月１日菅平高原大松山ゲレンデで開催された、東京都スキー技術選手権大会で好成績を修めた優秀選手２名、更に第45回クラブ対抗競技会、成年２部で好成績を修めた優秀選手１名合計３名が選出された。

この栄冠を射とめたのは、渡辺修司さん（シュア）、滝沢亜希子さん （日本スポレク）、後藤守さん （中野区） で、３人はフランス・シャモニーへ研修、国際交流の任を果たしてきた。以下はその報告である。

（紙面の都合で 後藤 さ ん の報告はスキージャーナルに掲載した。）

S.A.T.フランス研修ツアー

渡 辺 修 司

私達は３月16日から、３月23日迄の８日間フランスのシャモニーに東京都スキー連盟の代表として、フランス国立スキー学校の教師と研修を行なってきました。

第１日目は、2,450ｍ のフレジェール、２日目は，3,300ｍ のグラモンテ、３日目は、3,842ｍ のエギューデュ・ミデからバーレブランシェという、24kmの氷河を滑り、４日目はイタリアのクールメイユールスキー場で滑りました。

シャモニーという所は､日本のスキー場のように､山を切り開いてスキー場を作っているのではなく、自然の山に、ゴンドラや、リフトをつけた所がスキー場になっています。コースもほとんど規制された所がなく、立ち入り禁止の看板すらない所です。

ですから自分のレベルにあった斜面を選び身の安全は自分自身で守りながら滑らなくてはならないと思いました。

日本のスキー場とは比較にならない、雄大な広がりをもつスキー場なので、フランス国立スキー学校の教師の方達はあらゆる分野の知識を身につけておかなくてはいけません。私達の研修を行なっていただいた教師の方も、スキー場につくと､360度見渡す山々の名前を言い、その名前の由来とかを、説明されました。滑りもあまり細かい事にこだわらず、長い距離を、いかに楽に安全に滑るような、条件にあたった、自然な滑りをしていました。

これも環境にあった滑り方なんだと、つくづく思いました。スキーを終えて、シャモニーの町の中にある、エンサという、国立登山スキー学校を訪問してきました。ここは、教師になろうとする学校なので、スキーに関する事、登山に関する事などの資料や、整備が、万全に整っていました。

この中の図書館に入って見ると､あらゆる国のスキー、登山雑誌があり、日本のもとうぜんありました。

次にスキー学校を訪問しました。

ここは､日本の学校と違う所は､その日の朝、教師が向うゲレンデの状態や、気象状況が全て、一目でわかるシステムになっていました。

また、フランスでも、バッヂテストがあり、日本と違う点は、スラロームや、ジャイアントスラロームのテストもあり、それぞれ合格すると、合格スタンプを押す、カードがあり、次の段階へと、目標を自分で決める目安になるものがありました。

これは、スキーをする人達の意欲を引き出さすのに、とてもすばらしいアイデアだと思いました。

とにかく､フランスのスキー教師は、あらゆるスポーツのインストラクターとして、環境にマッチした生活を営んでいると思いました。

この研修で私達は､同じスキーでも、モノスキーや、スノーサーフィンといった、雪の上で楽しめるものにもっと積極的になろうと思いました。

海外派遣スキーツアー

滝 沢 亜 希 子

今回、ＳＡＴ派遣選手に選ばれ４日間シャモニーで、スキーを学んできました。そのスキーを教えて頂いたのは、シャモニースキー学校の先生である横山さんという方でした。

まず日程から説明していきますと、１日目、フレジェールスキー場。２日目、グラモンテスキー場。３日目、バーレブランシェ氷河。４日目、イタリアへ行き、クールメイユールスキー場というように、毎日違った所へ行き滑べってきたわけです。

いずれのスキー場も、日本のスキー場と違つて、あらゆる所を滑べることができるのです。したがって、自分達の好きな所を好きなように滑べることができるわけです。その半面、危険性が伴うわけですが、そこは各自の身は各自で守るということでした。

もうひとつ日本とは大きく違うことは、スキー場の大きさでした。日本とは比べものにならない大きさです。私達が７日にリフトに乗つた回数は、平均して3.4回でした。日本では考えられないことです。

このような環境の中で滑ってきたわけですが、技術的なことは、一斉教えてもらいませんでした。

横山さんが言うには『こんな大きなスキー場に来たのだから、いろんなコースを滑べり山を見ていきなさい｡技術的なことは日本でやりなさい』ということでした。唯一注意されたことは、『スピードを コントロールして滑ること、上手に滑ろうとせず斜面に応じたテクニックでマイペースで滑りなさい』と言われました｡まさにその通り､あの長いコースを上手に滑ろうと、頑張 ったら体がもちません。 又、一般のスキーヤーを見ていても転ぶ人は数少ないのです。見た目は不格好でも、きちんと板に乗って滑っていました。

日本人は、ほとんどの人が格好良く滑べろうとし、スピードオーバーして転ぶ人が多いと横山さんは言っていました。この違いは、基本的なことができるか、できないかだと思います。

いろんなコースを滑ったわけですが、林の中や急斜面や雪質の悪い所など行って思ったのは、このような多様な所を滑れば、自然に基本的な技術は身につくのではないかということです。だから、フランスの人は転んだりする人が少ないのではないでしょうか。

以上が技術的なことで一番印象的なことです。

その他にも、横山さんから数多くの話を聞きました。フランスのスキー学校の先生は、生徒にスキーを教える（日本的にいうと）というのではなく、スキー場のガイド役みたいなもので、生徒と一緒にスキーを楽しむという感じでした。ですから、先生達は技術的に上手ではないということですが、体力はすごくあるそうです。その点、オーストリアスキー系は技術は優れているが、少し理屈っぽいところがあるみたいです。

しかし、フランススキーもこの数年において技術的なことを取り入れ始めているということです。

この４日間、フランススキーという今までと全々違うスキーをして、とても楽しい研修でした。

あの広大なスキー場といい､山といい､誰もが一度は行ってほしい所です。必ず、スキーに対しての考え方が変ると思いますし、自分のためにもなると思います。

今回は、とても良い勉強をさせてもらいました。

フリー・スタイル・スキー選手権大会観戦記

総務部専門委員　**渡 辺　宏**

ワールドカップ・フリー・スタイル・スキーの横断幕や、各国の国旗に飾られた猪苗代スキー場と、猪苗代ファンタジアで東京都フリースタイル・スキー選手権大会兼、全日本フリー・スタイル・スキー東京大会を見ることが出来た。

『バレー競技』

初日に行なわれたバレー競技は、筆者の都合で残念ながら演技を見学出来なかったがかろうじて表彰式には間にあった。猪苗代湖を見おろす表彰台へ上る選手達は、若々しくて明るい。

夕食の時菅副会長と一緒になり、同席した元チャンピオンの角皆さん夫妻を交えていろいろ話した中で、バレー競技のコスチュームに話が及び、ウエット・スーツのように体の線がクッキリ出るものならば、見る人も楽しめるのではないかとか、男女のデュエットも取入れたらいかがなものかなど、歴史の新らしい競技に対する夢を語り合った。

この件に関しては雪の夜話しだと思って軽るく読んでいただければ結構です。

『モーグル競技』

雪が横に降っている。今日はモーグルだというのにこの悪天候。撮影場所を求めてコース添を$\frac{1}{3}$程ラッセルして昇ったが、時々スタート位置も見えなくなるぐらいだ。最大斜度35度の腰程ある凸凹のバーンは、所々雪が吹溜って最悪の条件となっている。

山の天気とはいえ天候待ちで時間通り競技は進行できない、この寒さの中では選手達のコンディション、調整は大変だったと思う。ましで動けないジャッジ・

グループや、音響担当者などは、ひたすら耐寒訓練をしているようで本当に御苦労様なことだと思う。

規制をクリヤーし、エアー（ジャンプ）を入れる選手もいたが、吹積った雪で思わぬトラブルに見舞れて、残念ながらギブアップする選手も見受られた。

この日は終日雪降りであった。

いったん競技が始まれば、ペース・セッターによって定められたタイムを目標に、若者達はパフォーマンスを繰りひろげる。日頃鍛えた技をスピーカーから流れるアップテンポのB・G・Mに誘われるように、厳しいバーンにアタックしてくる。途中３個所10mの巾

『エアリアル競技』

最終日雪は止んだが風がある。田北競技係長は風速計とにらめっこで、出発合図の旗を上げたり下げたりして、競技を進めていた。

アプローチを滑り降りる選手の速度を40キロ前後に調整するため、こちらも速度計に示される数字によって担当者は、選手達にスタート位置を指示をしていた。

踏切りカンテも、スモール、ミデアム、ビッグ、フローターの４種類あり、演技種目により使い分ける。

反りかえって天に向っているカンテの先端からストンと直角に切れて下がり、そこから約５m程前にフラットに迫り出て、ドーンとランディングバーンの急斜面となっている。このフラットの部分は時によって突風で押戻され選手が落下する危険がある為、安全面を考慮し先端に近い部分には柔かい雪を積んである。

当日も練習中にビッグから飛んだ選手が落下したが、顔にちよっとかすり傷程度で済んだ、落下した高さはビルの３階相当だという。ランディングのシヨックを最少限に押えるには、ランディング・バーンの最上部近くに降りるのが良いようだ。アプローチでのスピードが速くなれば当然高く遠くへ飛び、ジャンプ競技でいえばK点近くになる為、シヨックによる転倒の恐れが多くなるようだ。演技をする為に必要な高さ、それに要するスピードと、ランディングする理想的な場所、これらを総合的に加味しなくてはならない競技だ。

しかし短かめのスキー板を履き、ヘルメットで身を固めた若い選手達は、重力に逆って空中へ飛出して行くが、やはり空中で行うパフォーマンスには青空のバックが最高に望ましい。当日は見上げる鉛色の空に雲の流れが早い、地上で吹く風は雲の流れと反対に吹くという複雑な条件であった。このような条件の中でも男女とも見事な宙返りや、捻りを加えたパフォーマンスを度胸一番見せて下れた。フリー・スタイル・スキー全般にいえる事であるが、今回鍛えられたスペシャリストの領域である事をつくづく痛感した。

『結び』

今回どの競技にでもいえる事であったが、表彰式の雰囲気は、アルベールビルでのアッケラカンとした受賞や、ゴールインの時と同じように非常に明るいもので、クラブと名前を呼ばれ前に出てくる時に、軽るいステップで踊りながら出てくる人もいて、とても私達と同じ人種とは思えなかった。こんな感じを持った筆者は古い人間になったのかなーと、年代差を見せつけられた感があった。結論めいた事を最後に書かせてもらうと、フリー・スタイル・スキーの歴史は新らしく、若者達のニーズに合う所も多く、ギャラリーも比較的近くで競技を見られる事でもあり、多くのスキー場に競技施設が増え、適切なコーチング・スタッフがいれば、これから隆盛するスポーツだと考える。また、会場準備から競技運営や表彰迄各種運営に当つた、大槻委員長始め担当役員方々の影の御苦労を思い、見学の記としたい。

〔リゾートライフを彩る宿泊・スポーツ・アメニティ施設〕
■妙高パインバレープリンスホテル本館（138室）・新館（87室）■レストラン＆ショップ棟■リゾートロッジ（5棟・41室）■ゴルフコース（27ホール）■テニスコート（19面）■インドアゾーン（スイミングプール、テニスコート（2面）、アスレチックジム）■インドア馬場■18ホールパターゴルフ■つり堀■サイクリングロード ■ゴルフ練習場 ■スキー場 ■セミナーハウス

MYOKO PINE VALLEY
妙高パインバレー
妙高パインバレープリンスホテル
〒949-22 新潟県中頸城郡妙高村桶海1090
TEL.(0255)82-4111
東京案内所 TEL.(03)3434-8565　大阪案内所 TEL.(06)949-4300

第３回 小学生スキーチャンピオン大会

ジュニアクラスのスキー技術の普及と進展を願って東京都スキー連盟の登録の有無にか、わらず、広く小学生のための競技会を開催、今年は３回目です。

㈱野辺山ハイランドと東京銀座ライオンズクラブのご協力により、３月27日㈮午後１時30分より野辺山ハイランドスキー場のスーパーレッドコース（全長530m、標高差120m、最大斜度35度、平均斜度14度）で行われた。

参加選手は55名、左右の回転がスムーズに出来る小学生なら誰でも参加できるとあって、ゆっくり一生懸命旗門を通って３年連続出場という大人顔負けのクラウチングスタイルで滑走してくるマメ選手、みなみなヘルメットを着用し、オリンピック並のレーシングスーツに身を包むチビッコ選手の健闘ぶりは、見ていて誠にかわい、ものだった。

〈久保田記〉

登録番号 No.234

相互理解を基礎に

新宿スキークラブ　斉藤敬三

私たちのクラブは、昭和37年２月、苗場で新宿区のスキー講習会が行なわれた時の仲間が集まって発足しました。

若い自営業者や小企業に勤める、日頃横の関係が乏しい人達が、職業や年令を乗り越えてサークルとして集まり、スキーを通しての仲間として社会的知識や人間性を豊かにする事を目的としてスタートしたものです。夜遅くまで仕事のある人や、休日が異なる人達が、そういった壁を乗り越えて集まり、相互理解と信頼関係を大切にした自発的な行動でクラブを運営してきました。もちろん現在でもその精神は受け継がれています。

スキー技術が段々と向上し、会員の希望も出て、昭和44年９月、東京都スキー連盟に登録する事になりました。都連登録当初一人もいなかった有資格者も現在では33名となり、会員数もＡ団体登録をするまでになりました。クラブの運営方針としては、強制や規制はなるべくなくし、相互に良識の範囲で活動するようにしています。また会員はすべて平等であるという考えから、指導員でも「先生」とは呼ばず「コーチ」と呼んでいます。

オフシーズンにはテニスを中心とした活動が活発で毎週の練習の他、隔月に宿泊合宿を行っており、９月には山中湖で他のスキークラブとの交流テニス大会を開催、百名に近い参加者が和気あいあいと親睦を深めています。参加を希望するクラブがありましたらご連絡下さい。来年度には、クラブ創立30周年をむかえ、記念行事等を計画中で、会員一同気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。

登録番号 No.235

柏峰会とともに

柏峰スキークラブ　並木信久

私共のクラブは元白木屋（現東急百貨店）に勤務していた山歩きの仲間達によって、昭和41年に同行会（柏峰会）を発足し、冬期にはスキーの行事を企画しながら楽しく皆でこの会を育てて参りました。

昭和46年にシルバースキークラブ様のご推薦をいただき現在の名称に変更の上都連に加盟し、公認団体として、基礎スキー技能の習熟を図りながら、「安全で楽しいスキー」を目的に毎年各種行事を催してまいりました。

当クラブを構成する会員は勤務先等のために週末や祝祭日にはほとんどが休日を取れないため、企画する行事は平日のみを対象としています。都連の行う行事や公的な行事にも参加が難しく、クラブ員の指導者育成が思うに任せず、常にシルバースキークラブの先生方にご指導をいただいてきました。

現在は登録会員数30名（内１名準指導員）も勤務地が全国に散って休日も異なることから、会員個々に各地において各々の目的を達するための研修を行っているものの、クラブとしての統一行事等は紙面総会のみとし、発足以降続けてきたスキー学校やバッチテスト等の行事は平成元年より休止しております。

２年後を目標に首都圏の会員を整備・再編成して当初の目標を継続し、また、会員個々がより上級の技術習得のための講習会を行い、また併せて都連への貢献ができるクラブとして発展させていく予定でございます。

編　集　後　記

シーズンインは雪不足で心配されたものの、後半は積雪もほど良く降雪機のおかげもあり多くのゲレンデは花ざかりとなった。

４月３週の熊の湯での教育部行事を最後に、都連の今年度の雪上行事は無事終った。パラレルターンが出来るようになった人、資格をとった人、様々な進歩の一年だったことだろう。来シーズンに向けて更に目標を高く掲げている人もいるだろう。

最近は海外へ滑りに行く人も多くなった。都連でも海外へ代表を派遣させたり、外国デモを誘致しての講習会を行った。姉妹提携のスキー場が交換インストラクターを顧用したりして、スキー界もますます国際交流の場として発展、スキーテクニックは勿論、情報交換やふれあいの楽しさなどを体験している。難しく考えずスキーというスポーツを通じて仲良く理解しあう、そして自然とうまく対応するよう地球を守る一員でありたい。　街は新緑、残雪求めて春スキー万才。

ＳＡＴ編集委員会委員長　久保田友江

委員　北川清次、総務部専門委員本間毅一・渡辺宏